

平成 22 年度 全国学力・学習状況調査の結果概要

1 調査の目的

- (1) 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査の実施日 平成 22 年 4 月 20 日 (火)

3 調査実施学校数 (公立学校) 等

区 分	調査実施者数 (人)				
	国	県	国	県	本校
小学校第 6 学年	5,372	137	264,193	6,276	-
中学校第 3 学年	4,347	121	421,281	11,297	164

4 調査内容

(1) 教科に関する調査 (国語, 算数・数学)

主として知識に関する問題〔A問題〕

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など

主として活用に関する問題〔B問題〕

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

学校に対する調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

5 各教科の平均正答率

【本校と広島県・市内・全国中学校との比較】

国語						数学					
A問題			B問題			A問題			B問題		
国	県	本校	国	県	本校	国	県	本校	国	県	本校
75.3	76.0	71.3	65.3	65.7	59.8	64.6	64.9	60.0	43.3	43.3	39.9

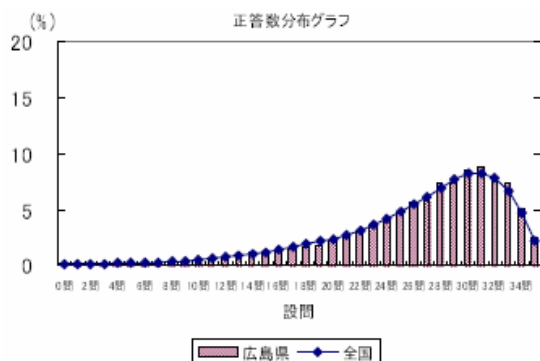
平均正答率については、おおむね国の平均を下回っている。その中でも、特に数学の活用に関わる B 問題においては、高い正答率を上げています。昨年度は、広島市の平均正答率を上回る事ができておりました。今後、基礎・基本の学力の向上に主眼をおいた指導を行ってまいります。

6 各教科の調査結果の概要

【中学校国語】

国語 A

【正答数の分布状況】

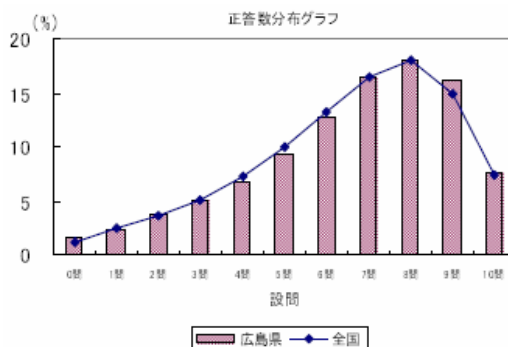


【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	本校
話すこと・聞くこと	74.2	74.0	71.2
書くこと	71.1	73.6	68.9
読むこと	76.6	77.0	73.4
言語事項	75.8	76.7	71

国語 B

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	本校
話すこと・聞くこと	45.6	47.7	42.0
書くこと	60.2	61.0	53.3
読むこと	67.5	67.7	61.8
言語事項	-	-	-

定着状況

A問題、B問題ともすべての領域で全国平均を下回っている。

課題

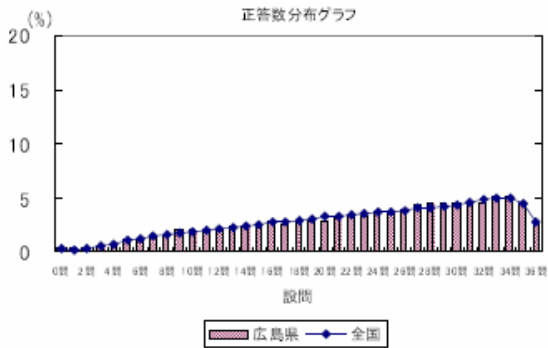
A問題においては、「文法」「漢字」「同音異義語」「語彙」に関する問題の正答率が低い。

- B問題においては、「意見」「感想」「表現」といった問題と、「基礎的知識」を問う問題の正答率が低い。

【中学校数学】

数学A

【正答数の分布状況】

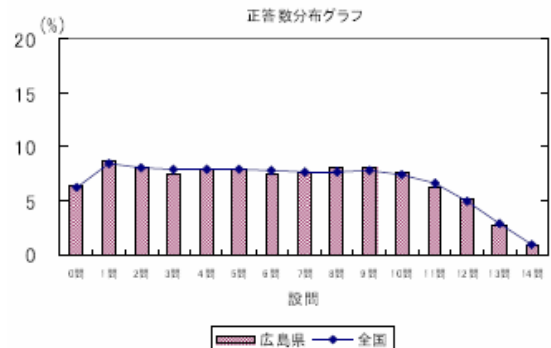


【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	本校
数と式	75.2	75.5	68.3
図形	64.3	64.7	61.1
数量関係	54.3	54.4	49.8

数学B

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	本校
数と式	43.2	43.6	42.1
図形	40.2	40.7	37.1
数量関係	45.5	44.9	40.6

定着状況

A問題、B問題の3領域すべてにおいて、全国平均および市平均を下回った。

課題

- 思考の過程を表現する力を養う。
- 身につけた知識を活用する力を養う。